

科目名	公害防止管理者ⅠA			担当教員	加 和朗	常勤・非	常勤	実務経験	有
対象学年	1年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科			履修時間	30		
実務経験	製糖工場 工場長 公害防止統括者 公害防止主任管理者								
学修内容	公害防止管理者資格取得に向けた講義(汚水処理特論)								
到達目標	公害防止管理者水質4種資格取得、科目合格								
授業の方法	主として、テキストを使った講義(読み合わせ及びポイント説明)。過去問題や教員の作成した模擬テスト。								
成績の評価と基準	期末の筆記試験、資格取得の可否、出席状況を総合的に判断(筆記試験:60%・国家試験合否:20%・出席:20%)して評価する。								
授業計画	(汚水処理特論) 1. 汚水等処理計画 2. 物理化学処理 3. 生物処理法 4. 汚水等処理装置の維持管理 5. 水質汚濁物質の測定技術 6. 過去問題演習								
使用教材等	新・公害防止の技術と法規 汚水処理特論 (一社)産業環境管理協会								
履修上の留意点・他	特になし								

科目名	公害防止管理者ⅠB			担当教員	加 和朗	常勤・非	常勤	実務経験	有
対象学年	1年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科			履修時間	30		
実務経験	製糖工場 工場長 公害防止統括者 公害防止主任管理者								
学修内容	公害防止管理者水質第4種取得に向け、「公害総論」を学び知識を修得する。テキストの読み合わせと、ポイントの説明								
到達目標	公害防止管理者水質4種資格取得、科目合格								
授業の方法	主として、テキストを使った講義(読み合わせ及びポイント説明)。過去問題や教員の作成した模擬テスト。								
成績の評価と基準	期末の筆記試験、資格取得の可否、出席状況を総合的に判断（筆記試験：60％・国家試験合否：20％・出席：20％）して評価する。								
授業計画	(公害総論) 1. 環境問題の概要 2. 環境基本法と環境関連法 3. 環境基本法の解説 4. 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律の解説 5. 最近の環境問題 6. 各種環境管理手法に関すること 7. 国際協力 8. 法規編(環境基本法) 9. 法規編(環境基準) 10. 法規編(特定工場における公害組織の整備に関する法律) 11. 過去問題演習 12. 過去問題演習 : 15. 過去問題演習								
使用教材等	新・公害防止の技術と法規      公害総論・水質概論      (一社)産業環境管理協会								
履修上の留意点・他	特になし								

科目名	公害防止管理者ⅠC			担当教員	加 和朗	常勤・非	常勤	実務経験	有
対象学年	1年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科			履修時間	30		
実務経験	製糖工場 工場長 公害防止統括者 公害防止主任管理者								
学修内容	公害防止管理者水質第4種取得に向け、「水質総論」を学び知識を修得する。テキストの読み合わせと、ポイントの説明								
到達目標	公害防止管理者水質4種資格取得、科目合格								
授業の方法	主として、テキストを使った講義(読み合わせ及びポイント説明)。過去問題や教員の作成した模擬テスト。								
成績の評価と基準	期末の筆記試験、資格取得の合否、出席状況を総合的に判断（筆記試験：60%・国家試験合否：20%・出席：20%）して評価する。								
授業計画	(水質概論) 1. 水質汚濁防止対策のための法規制の仕組み 2. 水質汚濁防止法の解説 3. 水質汚濁の現状 4. 水質汚濁の影響 5. 国又は地方公共団体の水質汚濁防止対策 6. 法規編 7. 過去問題演習								
使用教材等	新・公害防止の技術と法規      公害総論・水質概論      (一社)産業環境管理協会								
履修上の留意点・他	特になし								

科目名	公害防止管理者ⅠD			担当教員	加 和朗	常勤・非	常勤	実務経験	有
対象学年	1年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科			履修時間	30		
実務経験	製糖工場 工場長 公害防止統括者 公害防止主任管理者								
学修内容	前期より引き続き公害防止管理者資格取得に向けた講義(公害総論・水質概論)								
到達目標	公害防止管理者水質4種資格取得、科目合格								
授業の方法	主として、テキストを使った講義(読み合わせ及びポイント説明)。過去問題や教員の作成した模擬テスト。								
成績の評価と基準	期末の筆記試験、資格取得の可否、出席状況を総合的に判断(筆記試験：60%・国家試験合否：20%・出席：20%)して評価する。								
授業計画	(公害総論) 1. 環境問題の概要 2. 環境基本法と環境関連法 3. 環境基本法の解説 4. 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律の解説 5. 最近の環境問題 6. 各種環境管理手法に関すること 7. 国際協力 8. 法規編(環境基本法) 9. 法規編(環境基準) 10. 法規編(特定工場における公害組織の整備に関する法律) 11. 過去問題演習 12. 過去問題演習 : 15. 過去問題演習				(水質概論) 1. 水質汚濁防止対策のための法規制の仕組み 2. 水質汚濁防止法の解説 3. 水質汚濁の現状 4. 水質汚濁の影響 5. 国又は地方公共団体の水質汚濁防止対策 6. 法規編 7. 過去問題演習				
使用教材等	新・公害防止の技術と法規 公害総論・水質概論 (一社)産業環境管理協会								
履修上の留意点・他	特になし								

科目名	公害防止管理者IIA			担当教員	加 和朗 伊藤 博実	常勤・非常勤	常・非常勤	実務経験	有
対象学年	2年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科	コース	情報プロフェッショナルコース 環境マネジメントコース オフィスビジネスコース	履修時間	60		
実務経験	(加) 製糖工場 工場長 公害防止統括者 公害防止主任管理者				(伊藤) 環境系企業 環境計量士業務 公益法人(両道安全) 作業環境測定士業務 一般社団法人(計量) 一般計量士業務				
学修内容	1年次より引き続き公害防止管理者資格取得に向けた講義(汚水処理特論)								
到達目標	公害防止管理者水質4種資格取得、科目合格								
授業の方法	主として、テキストを使った講義(読み合わせ及びポイント説明)。過去問題や教員の作成した模擬テスト。								
成績の評価と基準	期末の筆記試験、資格取得の可否、出席状況を総合的に判断(筆記試験:60%・国家試験合否:20%・出席:20%)して評価する。								
授業計画	加(汚水処理特論) 1. 汚水等処理計画 2. 物理化学処理 3. 生物処理法 4. 汚水等処理装置の維持管理 6. 過去問題演習				伊藤(汚水処理特論) 5. 水質汚濁物質の測定技術 6. 過去問題演習				
使用教材等	新・公害防止の技術と法規 汚水処理特論 (一社)産業環境管理協会								
履修上の留意点・他	特になし								

科目名	公害防止管理者ⅡB			担当教員	加 和朗	常勤・非	常勤	実務経験	有
対象学年	2年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科	コース	情報プロフェッショナルコース 環境マネジメントコース オフィスビジネスコース	履修時間	30		
実務経験	製糖工場 工場長 公害防止統括者 公害防止主任管理者								
学修内容	1年次より引き続き公害防止管理者資格取得に向けた講義(公害総論)								
到達目標	公害防止管理者水質4種資格取得、科目合格								
授業の方法	主として、テキストを使った講義(読み合わせ及びポイント説明)。過去問題や教員の作成した模擬テスト。								
成績の評価と基準	期末の筆記試験、資格取得の可否、出席状況を総合的に判断(筆記試験:60%・国家試験合否:20%・出席:20%)して評価する。								
授業計画	(公害総論) 1. 環境問題の概要 2. 環境基本法と環境関連法 3. 環境基本法の解説 4. 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律の解説 5. 最近の環境問題 6. 各種環境管理手法に関すること 7. 国際協力 8. 法規編(環境基本法) 9. 法規編(環境基準) 10. 法規編(特定工場における公害組織の整備に関する法律) 11. 過去問題演習 12. 過去問題演習 : 15. 過去問題演習								
使用教材等	新・公害防止の技術と法規 公害総論・水質概論 (一社)産業環境管理協会								
履修上の留意点・他	特になし								

科目名	公害防止管理者II C			担当教員	加 和朗	常勤・非	常勤	実務経験	有
対象学年	2年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科	コース	情報プロフェッショナルコース 環境マネジメントコース オフィスビジネスコース	履修時間	30		
実務経験	製糖工場 工場長 公害防止統括者 公害防止主任管理者								
学修内容	1年次より引き続き公害防止管理者資格取得に向けた講義(水質概論)								
到達目標	公害防止管理者水質4種資格取得、科目合格								
授業の方法	主として、テキストを使った講義(読み合わせ及びポイント説明)。過去問題や教員の作成した模擬テスト。								
成績の評価と基準	期末の筆記試験、資格取得の可否、出席状況を総合的に判断(筆記試験:60%・国家試験合否:20%・出席:20%)して評価する。								
授業計画	(水質概論) 1. 水質汚濁防止対策のための法規制の仕組み 2. 水質汚濁防止法の解説 3. 水質汚濁の現状 4. 水質汚濁の影響 5. 国又は地方公共団体の水質汚濁防止対策 6. 法規編 7. 過去問題演習								
使用教材等	新・公害防止の技術と法規 公害総論・水質概論 (一社)産業環境管理協会								
履修上の留意点・他	特になし								

科目名	廃棄物管理			担当教員	加 和朗	常勤・非	常勤	実務経験	有
対象学年	1年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科			履修時間	30		
実務経験	製糖工場 工場長 公害防止統括者 公害防止主任管理者								
学修内容	産業廃棄物の知識や法律、それを取り巻く状況等を学び、産業廃棄物に対する意識向上を図る。								
到達目標	特別産業廃棄物管理者講習合格								
授業の方法	主として、テキストを使った講義。公害総論と同時に学ぶ。								
成績の評価と基準	期末の筆記試験、資格取得の可否、出席状況を総合的に判断（筆記試験：80％・出席：20％）して評価する。								
授業計画	公害総論の一環として、廃棄物について学習する 1. 環境基本法 2. 環境関連法 3. 循環型社会形成関連法 4. 最近の環境問題 5. 廃棄物問題								
使用教材等	新・公害防止の技術と法規 公害総論 (一社)産業環境管理協会								
履修上の留意点・他	特になし								



科目名	環境社会			担当教員	加 和朗	常勤・非	常勤	実務経験	有
対象学年	1年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科			履修時間	60		
実務経験	製糖工場 工場長 公害防止統括者 公害防止主任管理者								
学修内容	環境と経済を両立させた「持続可能な社会」の推進に向けて、環境に対する幅広い知識を身につけたecoピープルを育成する。								
到達目標	東京商工会議所主催 eco検定試験合格及びecoピープル								
授業の方法	主として、テキストを使った講義。公害総論及び水質概論と並行して学ぶ。								
成績の評価と基準	期末の筆記試験、資格取得の合否、出席状況を総合的に判断（筆記試験：80%・出席：20%）して評価する。								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 持続可能な社会に向けて</li> <li>2. 地球を知る</li> <li>3. 環境問題を知る</li> <li>4. 持続可能な社会に向けたアプローチ</li> <li>5. 各主体の役割・活動</li> <li>6. エコピープルへのメッセージ</li> </ol>								
使用教材等	(環境社会検定試験)eco検定 公式テキスト 東京商工会議所編著 検定(公式)過去・模擬問題集 東京商工会議所編著								eco
履修上の留意点・他	特になし								

科目名	公害防止管理者Ⅲ			担当教員	加 和朗	常勤・非	常勤	実務経験	有
対象学年	2年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科	コース	環境マネジメントコース	履修時間	180		
実務経験	製糖工場 工場長 公害防止統括者 公害防止主任管理者								
学修内容	公害防止管理者国家試験異に向け、公害総論・水質概論・汚水処理特論のまとめ								
到達目標	公害防止管理者水質第4種資格取得								
授業の方法	主として、テキストを使った講義。今までの小テスト(過去問題等)の正解や不正解に基づき各ポイントを集中的に講義。計算問題について集中講義								
成績の評価と基準	期末の筆記試験、資格取得の可否、出席状況を総合的に判断(筆記試験：80%・出席：20%)して評価する。								
授業計画	(公害総論) 1. 環境問題の概要 2. 環境基本法と環境関連法 3. 環境基本法の解説 4. 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律 5. 最近の環境問題 6. 各種環境管理手法に関すること 7. 国際協力 8. 法規編(環境基本法) 9. 法規編(環境基準) 10. 法規編(特定工場における公害組織の整備に関する法律) 11. 過去問題演習 12. 過去問題演習 : 15. 過去問題演習			(水質概論) Ⅱ.1 水質汚濁防止法のための法規制の仕組み Ⅱ.2 水質汚濁防止法の解説 Ⅱ.3 水質汚濁の現状 Ⅱ.4 水質汚濁と発生源 Ⅱ.5 水質汚濁機構 Ⅱ.6 水質汚濁の影響 Ⅱ.7 国又は地方公共団体の水質汚濁機構 法規編 過去 問題演習			(汚水処理特論) 1. 汚水等処理計画 2. 物理化学処理法 3. 生物処理法 4. 汚水処理装置の維持管理 5. 水質汚濁物質の測定技術 6. 計測機器 過去問題演習		
使用教材等	新・公害防止の技術と法規(公害総論、水質概論、汚水処理特論) (一社)産業環境管理協会								
履修上の留意点・他	特になし								

科目名	卒業研究		担当教員	加 和朗	常勤・非	常勤	実務経験	有
対象学年	2年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科	コース	情報プロフェッショナルコース 環境マネジメントコース オフィスビジネスコース	履修時間	90	
実務経験	製糖工場 工場長 公害防止統括者 公害防止主任管理者							
学修内容	2年生各自がテーマを決め、テーマに基づいて論文を作成し、発表する。							
到達目標	卒業前の発表会							
授業の方法	各自、テーマに基づいて、文献やインターネット等を活用し、論文をまとめていく。各テーマについて、論文の作成状況を確認し、また、指導や助言を行う。							
成績の評価と基準	期末の筆記試験、資格取得の可否、出席状況を総合的に判断（筆記試験：80%・出席：20%）して評価する。							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テーマの選定</li> <li>2. テーマを選択した理由</li> <li>3. テーマの概要を調査</li> <li>4. まとめ</li> <li>5. 提出</li> <li>6. 説明用試料の作成8(パワーポインター)</li> <li>7. 発表会(全教員・全学生)</li> </ol> 8. 質疑応答。							
使用教材等	各文献・新公害防止の技術と法規・eco検定公式テキスト・インターネット等							
履修上の留意点・他	特になし							

科目名	労働安全衛生Ⅰ			担当教員	伊藤 博実	常勤・非	非常勤	実務経験	有
対象学年	1年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科			履修時間	60		
実務経験	環境系企業                      環境計量士業務 公益法人（労働安全）      作業環境測定士業務 一般社団法人（計量）      一般計量士業務								
学修内容	各種作業主任者の技能講習で行われる作業環境の改善方法に関する知識と保護具に関する知識・技能を取得し、労働災害の防止に役立てるようにする。								
到達目標	各種作業主任者の技能講習で行われる終了試験に合格することを目指す。								
授業の方法	各種作業主任者で使用されるテキストを使用し、作業環境の改善方法に関する知識と保護具に関する知識を取得する。								
成績の評価と基準	課題進捗状況、出席状況等を総合的に判断し評価する。								
授業計画	1.労働衛生法について 2.ダイオキシン類について 3.酸素欠乏および硫化水素中毒の原因および防止対策 4.保護具（酸素欠乏作業で使用する呼吸用保護具等） 5.硫化水素濃度測定 6.特定化学物質・四アルキル鉛等の作業環境の改善方法 7.特定化学物質・四アルキル鉛等の労働衛生保護具								
使用教材等	酸素欠乏危険作業主任者テキスト 特定化学物質・四アルキル鉛等作業主任者テキスト			中央労働災害防止協会 中央労働災害防止協会					
履修上の留意点・他	特になし。								

科目名	労働安全衛生Ⅱ			担当教員	伊藤 博実	常勤・非	非常勤	実務経験	有	
対象学年	2年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科	コース	情報プロフェッショナルコース 環境マネジメントコース オフィスビジネスコース	履修時間	60			
実務経験	環境系企業 環境計量士業務 公益法人（労働安全） 作業環境測定士業務 一般社団法人（計量） 一般計量士業務									
学修内容	各種作業主任者の技能講習で行われる作業環境の改善方法に関する知識と保護具に関する知識・技能を取得し、労働災害の防止に役立てるようにする。									
到達目標	各種作業主任者の技能講習で行われる終了試験に合格することを目指す。									
授業の方法	各種作業主任者で使用されるテキストを使用し、作業環境の改善方法に関する知識と保護具に関する知識を取得する。									
成績の評価と基準	課題進捗状況、出席状況等を総合的に判断し評価する。									
授業計画	1.有機溶剤の作業環境の改善方法 2.有機溶剤の労働衛生保護具 3.石綿の作業環境の改善方法 4.石綿の労働衛生保護具 5.鉛の作業環境の改善方法 6.鉛の労働衛生保護具 7.作業環境測定について									
使用教材等	有機溶剤作業主任者テキスト 石綿作業主任者テキスト 作業主任者テキスト			中央労働災害防止協会 中央労働災害防止協会 中央労働災害防止協会					鉛	
履修上の留意点・他	特になし。									